

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	情報機器の操作 I	■講師名	榎村麻里子
1 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要 パソコンを用いた文書作成、情報収集、プレゼンテーション等、社会人として必要な文書作成に関する素養を高める。			
■授業目的、到達目標 Wordの操作技術と基本的なビジネス文書の構成を習得し、文書の起案作成力を目的とする。またPowerPointを使用して伝えることを習得する。			
■授業方法 講義、演習			
■教科書（書籍名・出版社） FOM出版 よくわかるWord2019&Excel2019&PowerPoint2019			
■成績評価・講義上の注意 出席日数、授業態度、制作物で総合的に評価			
■実務経験 講師は、システム会社2年間勤務後、パソコン講師として約20年の勤務経験を活かし、社会人として必要な文書作成が出来るような授業を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション/PC教室の環境と教室の利用方法/Windows操作		
2	Wordの基本操作/文字入力/タイピング		
3	ビジネス文書の基本構成ビジネス文書のポイント		
4	ビジネス文書作成（1）		
5	就職に必要な文書作成と注意事項		
6	表作成の基本と編集		
7	ビジネス文書作成（2）		
8	ビジネス文書作成（3）		
9	図形の基本操作と編集		
10	図形を用いた効果的な文書、掲示物の作成		
11	PowerPointを使用してスライド作成		
12	総合演習1（掲示物作成）		
13	総合演習2（掲示物作成）		
14	総合演習3（掲示物作成）/発表		
15	テスト		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育の心理学	■講師名	木戸直美
1 年 前 期	7.5 コマ (1コマ90分授業)	総時間	15 時間 講義 1 単位
■学修概要 幼児体育を学び理論と実技を覚え保育現場に生かせるようにする。			
■授業目的、到達目標 幼児体育検定の合格と安全な体育指導を出来るのが目的			
■授業方法 座学、実技を併用し、座学で学んだものを実技で使用する			
■教科書（書籍名・出版社） 幼児体育指導者検定2、3級テキスト			
■成績評価・講義上の注意 出席日数、試験結果、課題にて判断			
■実務経験 講師は、公益財団法人日本幼少年体育協会に3年以上携わっている。その実績を踏まえ、幼児体育の指導者の実務者の観点から講義を行う。保育現場で使用できる体育指導ができるように導く。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	幼児体育の必要性、どんな種類があるか		
2	幼児体育理論 発達の様相		
3	幼児体育理論 スキャモンの発育曲線		
4	理論に基づいた指導案の書き方		
5	前転、前転指導法		
6	後転、後転指導法		
7	跳び箱見本		
8	跳び箱補助、運動遊び		
9	跳び箱後ろ補助、指導案使い方から運動遊び		
10	縄指導法		
11	ボール指導法		
12	日常の道具を使う運動遊び		
13	リズム体操		
14	リズム体操の振り付け		
15	テスト		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	子ども家庭支援の心理学	■講師名	伊藤能之
1 年 前 期	30 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
乳幼児期は心身の発達が人間の生涯において最も著しい時期だと言える。 その時期における心身の発達の特徴と必要な家族支援について学ぶ。			
■授業目的、到達目標			
子どもの心身の発達について知識を身に付け、現在の家族の在り方と必要な支援について理解する。			
■授業方法			
講義			
■教科書（書籍名・出版社）			
新版 保育の心理学 I 一藝社			
■成績評価・講義上の注意			
出席日数、授業態度、作成物で総合的に評価			
■実務経験			
講師は、子育て支援センターの勤務経験を活かし、実務者の観点から講義を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	子どもを取り巻く環境と発達		
2	生涯発達心理学の視点		
3	子どもの身体・運動発達		
4	子どもの知覚・認知の発達		
5	自己意識の発達		
6	子どもの言葉・コミュニケーションの発達		
7	子どもの情緒・欲求の発達		
8	愛着関係の形成と発達		
9	仲間関係の発達		
10	道徳性と向社会的行動の発達		
11	子どもの発達と子ども集団		
12	児童期・青年期の発達		
13	成人期・老年期の発達		
14	保育実践における評価		
15	地域社会における子ども支援		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	子どもの保健	■講師名	山崎 雅子
1 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
<p>今日の子育て環境の状況を把握し、子どもの発育・発達の課題を知る。また、生命の誕生、子どもの生理機能のしくみ、医学的知識を学び、心身の健康と疾病の早期発見、予防について学んでいく。そして現場で実践できる力を付けていく。</p>			
■授業目的、到達目標			
<p>1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する 2) 子どもの身体発育・発達のしくみを把握し、健やかにそだつために必要な援助の方法を理解する 3) 子どもの心身の健康状態とその把握の方法を理解する 4) 子どもの感染症などの疾病とその予防法をしり、関連機関との連携・協働により、子どもの生命の安全を守る方法を理解する</p>			
■授業方法			
<p>教科書の読み合わせと解説、意見交換を行う。加えて関連番組のDVDの視聴をし、授業内容を深める。</p>			
■教科書（書籍名・出版社）			
<p>子ども保健：中根 淳子（編著）佐藤 直子（編著）北川 好郎（著）濱口 典子（著） ななみ書房</p>			
■成績評価・講義上の注意			
<p>授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合成績評価の対象外となる</p>			
■実務経験			
<p>講師は、長年の看護師の臨床経験及び8年間の保育現場で携わった実績を持っている。実務者の観点を活かした講義と、専門家の文献や関連番組の映像をDVDで紹介していく。</p>			
■授業計画（講義の流れ）			
1	自己紹介・授業の流れ・子どもの心身の健康と保健の意義・・・生命保持と情緒の安定		
2	子どもの心身の健康と保健の意義・・・健康の概念と健康指標		
3	子どもの心身の健康と保健の意義・・・現代社会における子どもの健康に関する現状と課題		
4	子どもの身体的発育・発達と保健・・・身体発育及び運動機能の発達と保健		
5	子どもの身体的発育・発達と保健・・・生理機能の発達と保健		
6	子どもの身体的発育・発達と保健・・・発達に即応した基本的生活習慣の形成		
7	子どもの心身の健康状態とその把握・・・健康状態の観察、心身の不調等の早期発見		
8	子どもの心身の健康状態とその把握・・・発育発達の把握と健康診断、保護者との情報共有		
9	子どもの疾病の予防及び適切な対応・・・子どもの疾病の特徴		
10	子どもの疾病の予防及び適切な対応・・・保育の現場でよくある疾患（1）		
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応・・・保育の現場でよくある疾患（2）		
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応・・・保育の現場でよくある疾患（3）		
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応・・・保育の現場でよくある疾患（4）		
14	復習		
15	定期試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容総論	■講師名	小野寺 美奈
1 年 前 期	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要			
子どもの権利を地軸として、子どもの権利を保障する保育内容についての基礎的知識・方法を習得する。			
■授業目的、到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領について内容を理解し、現在の保育において求められる目標・方法の概要をつかむ。 ・ 子どもの権利についての理解を深める。 ・ 子どもの権利を保障するための保育内容の具体的な実践方法について習得する。 			
■授業方法			
講義・演習、基本的にテキストに沿って授業を進める。			
■教科書（書籍名・出版社）			
『子どもの権利との対話から学ぶ 保育内容総論』北大路書房			
■成績評価・講義上の注意			
出席日数、授業態度、提出物、試験により総合的に評価			
■実務経験			
講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション		
2	第1章 生まれたときから子どもには権利がある：保育内容総論の基本		
3	第2章 子どもの育ちに驚き、保育内容との関係性を学ぶ		
4	第3章 子どもの遊びと保育内容の関係性を深める		
5	第4章 環境を通して行う保育を掘り下げる		
6	第5章 子どもの生活から保育内容を考える：保育内容の変遷と社会的背景		
7	第6章 乳児期（0, 1, 2 歳児）の特性と保育内容：総合的なとらえ方		
8	第7章 幼児期（3, 4, 5 歳児）の特性と保育内容		
9	第8章 子どもの育ちと学びの可視化—保育における観察・記録・評価—		
10	第9章 保育内容の多様性		
11	第10章 すべての子どもがつながりの中で育つ保育：インクルージョンの実現に向けて		
12	第11章 持続可能な社会をつくる乳幼児期の保育・教育		
13	第12章 保育内容の地平線：世界との対話		
14	終 章 子どもの権利を保障する保育者・保育内容		
15	学期末試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容演習（健康）	■講師名	丸山東人
1 年 前 期	30 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要			
5領域の根幹をなす領域「健康」のねらいと内容を、時代背景と共に解説する。受講後に、改めて「乳幼児期は生涯にわたる健康づくりの基盤となる重要な時期である」ことを感じ入っていただければ幸いだ。			
■授業目的、到達目標			
以下の①②を通じて、領域「健康」のねらいと内容の理解を深める。 ①子どもの健康に、理論的にアプローチする。 ②子どもの健康を、今日の健康教育学の諸問題から考察する。			
■授業方法			
講義とアクティブラーニング（討議、授業内レポート）			
■教科書（書籍名・出版社）			
改訂版/子どもの育ちを支える子どもと健康、浅見ら編著、大学図書出版、2019			
■成績評価・講義上の注意			
平常点（出席日数、授業態度）及び提出物の内容、試験の3点から総合的に評価する。 なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。			
■実務経験			
講師は、大学と専門学校で保育士・幼稚園教諭・学校教員の養成に携わってきた経験や、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション		
2	心身の健康とは		
3	乳幼児期の心身の発育・発達		
4	保育の基本と保育内容「健康」		
5	明るく伸び伸びとした生活とは		
6	遊びの中で十分に体を動かす		
7	健康・安全な生活とは		
8	安全に気をつけて行動するとは		
9	園生活を通して自分の体を大切にしようとするために		
10	自然の中で伸び伸びとあそぶようになるために		
11	先生や友達と食べることを楽しむ		
12	望ましい食習慣を形成するために		
13	幼児の健康課題とその保障		
14	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認		
15	定期試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容演習（表現）	■講師名	小野寺 美奈
1 年 前 期	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要			
子どもの発達・成長における表現の重要性についてふまえた上で、子どもの感性や創造性を豊かに育む領域「表現」の指導法について学び、考える。			
■授業目的、到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 領域「表現」が子どもの成長・発達に大きく寄与することを理解する。 ・ 様々な表現の取り組みについて実践的に学び、子どもの感性や創造性を豊かに育む指導法について立案できるようになる。 			
■授業方法			
講義・演習			
■教科書（書籍名・出版社）			
『必ず役立つ！保育の年中行事まるごとアイデア』（ナツメ社） 上記テキストに加え、随時講師作成レジュメを使用する。			
■成績評価・講義上の注意			
出席日数、授業態度、提出物等により総合的に評価する。			
■実務経験			
講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション		
2	子どもの遊びや生活における表現		
3	表現と五感		
4	領域「表現」の歴史と内容		
5	領域「表現」と環境構成		
6	季節の造形・壁面づくり①		
7	季節の造形・壁面づくり②		
8	表現と鑑賞		
9	3歳未満児の領域「表現」の指導方法及び保育の構想		
10	3歳以上児の領域「表現」の指導方法及び保育の構想		
11	期末発表のテーマ検討		
12	期末発表準備		
13	期末発表準備		
14	期末発表リハーサル		
15	期末発表		

授業計画 (シラバス)

こども保育学科

■科目	音楽 I	■講師名	前田 有輝
1 年 通 年	30 コマ (1コマ90分授業)	総時間	60 時間 演習 2 単位
■学修概要	保育内容に沿った音楽表現ができるよう、音楽の基本的な理論を学び、楽譜の読み方、コードネームなど基礎的な知識・技術を学ぶ。様々な子どものうたを覚える。		
■授業目的、到達目標	歌唱・楽器演奏につながる基礎的読譜能力を身につける。主要三和音について理論的に理解し、コードネームでの簡易伴奏ができるようにする。子どもの歌について学び、子どもたちの豊かな音楽表現に繋げる基礎力を身に着ける。		
■授業方法	音楽の理論を学んでいくため、座学が中心。		
■教科書 (書籍名・出版社)	超やさしい楽譜の読み方 これだけは覚えよう：音楽之友社 改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育：教育芸術社		
■成績評価・講義上の注意	授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。		
■実務経験	2014年に自身初となるソロリサイタルを開催する。その後多数のオペラや合唱曲、幼児向けコンサートへの出演や動画作成も行う。これまでに個人レッスン・混声合唱団そよ風・横浜創英中学高等学校・日本大学高等学校中学校にて指導者・講師としても活動。「生徒による授業評価アンケート」にて連続で非常に高い評価を受ける。		
■授業計画 (講義の流れ)			
1	オリエンテーション、楽譜の基礎知識1		
2	楽譜の基礎知識2、音符と休符1、読譜・記譜練習		
3	音符と休符2、読譜・記譜練習		
4	4・5月の歌、読譜・記譜練習		
5	音符と休符のまとめ		
6	拍子とリズム1、6月の歌		
7	大譜表の記譜練習、拍子とリズム2		
8	音程1、7月の歌		
9	音程2		
10	音程3		
11	移調導入、8月の歌		
12	楽譜、9月の歌		
13	前期総まとめ		
14	前期総まとめ		
15	前期試験		
16	読譜・記譜練習、音階と調1 (ハ長調)		
17	音階と調2 (調号3つまで)		
18	移調、10月の歌		
19	和音とコードネーム1		
20	和音とコードネーム2		
21	和音とコードネーム3		
22	11月の歌、コード伴奏づけ		
23	楽譜、9月の歌リズム創作		
24	12月の歌、合奏		
25	簡易伴奏編曲、記譜		
26	1月の歌、わらべうた		
27	2月の歌、総まとめ		
28	3月の歌、総まとめ		
29	総まとめ		
30	後期試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	図画工作 I	■講師名	高島潤子
1 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要			
<p>幼児美術には2つの側面がある。表現したいことを表現するための技術の習得。 もう一つは創造力を伸ばすことだ。 大人になると絵を苦手とする人も多いが、実技を通して、自らの想像力を伸ばしてほしい。</p>			
■授業目的、到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 上手・下手の概念をこわす。知ることを楽しむ。 ・ 子供に安全に創作できる方法を学ぶ。 			
■授業方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題・策円の製作とプレゼンテーション 			
■教科書（書籍名・出版社）			
特になし			
■成績評価・講義上の注意			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席 ・ 課題への取り組み方 ・ 作品に創意工夫があるか ・ 自分の意見を言葉として表現できるか 			
■実務経験			
<p>講師は、10年以上絵本作家として活躍している。作家の実績を踏まえ、絵本作り等の実務者の観点から講義を行う。 作家として著書を7冊出版。雑誌などにも寄稿。</p>			
■授業計画（講義の流れ）			
1	概念をすてる（自画像）		
2	色水あそび		
3	紙を切る・テープを貼る・ホチキスとつかう		
4	粘土あそび1		
5	粘土あそび2		
6	絵具を使った技法		
7	クレヨンを使った技法		
8	壁画をつくろう（みんなで1つの大きなものをつくる）		
9	壁画をつくろう（みんなで1つの大きなものをつくる）		
10	壁画をつくろう（みんなで1つの大きなものをつくる）		
11	壁画をつくろう（みんなで1つの大きなものをつくる）		
12	季節の工作进行を提案しよう		
13	製作		
14	プレゼン資料製作		
15	テスト・発表		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	幼児体育 I	■講師名	池田一穂 上原一太郎
1 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要 幼児体育講義での内容を使いつつ現場に活かす方法考えて自ら体育指導に参加できる人材育成			
■授業目的、到達目標 幼児体育講義での内容を使いつつ現場に活かす方法考えて自ら体育指導の手伝いができる保育士を目指す。			
■授業方法 座学、実技を併用し、座学で学んだものを実技で使用する			
■教科書（書籍名・出版社） 幼児体育指導者検定2、3級テキスト			
■成績評価・講義上の注意 出席日数、試験結果、課題にて判断			
■実務経験 講師は、公益財団法人日本幼少年体育協会に3年以上携わっている。その実績を踏まえ、幼児体育の指導者の実務者の観点から講義を行う。保育現場で使用できる体育指導ができるように導く。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	幼児体育とは何かと、運動遊び体験		
2	発達との様相・運動の中のリズム遊び		
3	指導案の書き方と実践		
4	指導案の実践		
5	前転、前転補助テスト		
6	後転、後転補助テスト		
7	跳び箱見本テスト		
8	跳び箱補助テスト		
9	縄指導、縄テスト		
10	縄の遊びを考え、指導案の製作、実践		
11	ボール遊びを考える、指導案の制作、実践		
12	運動遊びと体操の関係性と指導案の作成		
13	リズム体操		
14	リズム体操テスト		
15	試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	障害児保育	■講師名	相澤 隆二
1 年 通 年	30 コマ (1コマ90分授業)	総時間 60 時間	講義 2 単位
■学修概要			
障害児保育の理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について、個々の障害の特性や心身の発達等に応じた援助や支援、配慮について理解をする。併せて家庭への支援や関係機関との連携等について理解する。また、障害児その他配慮を要する子供の保育に関する現状と課題について理解する。			
■授業目的、到達目標			
1、障害特性に応じた障害児との関わりを理解する。2、障害児保育における保育方法と計画を理解する。3、障害児保育に関連する諸制度を理解し、身に付ける。4、障害児その他特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。			
■授業方法			
講義			
■教科書（書籍名・出版社）			
新 基本保育シリーズ ⑩ 障害児保育 / 中央法規			
■成績評価・講義上の注意			
授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。			
■実務経験			
社会福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者 障害児・者のサービス管理責任者や高齢者施設での相談員等を経験し、東京都内で保育園、学童保育、放課後等デイサービス、障害児・者の特定計画相談事業および横浜市内で高齢者施設、障害者施設を運営する社会福祉法人の理事長。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	障がいの概念		
2	障害児保育の歴史		
3	障害児者の地域社会への参加		
4	障害児者への合理的配慮の理解		
5	身体障害（肢体不自由）児・者の理解		
6	身体障害（肢体不自由）児・者の援助		
7	車いす体験		
8	知的障害児・者の特徴、行動特性		
9	知的障害児・者への援助、支援		
10	身体障害（視覚・聴覚・言語）児・者の理解、援助		
11	発達障害児の障害特性		
12	発達障害の特性に応じた援助		
13	重症心身障害児、医療的ケア児の援助		
14	重症心身障害児、医療的ケア児の理解		
15	定期試験		
16	指導計画の理解		
17	個別支援計画の理解		
18	障害児保育の形態		
19	環境としての保育者の役割		
20	障害児の健康と安全①		
21	障害児の健康と安全②		
22	職員間の連携・協働		
23	関係機関との連携・協働		
24	保護者、地域との連携		
25	保護者、家庭の理解、支援		
26	専門機関の理解		
27	専門機関との連携		
28	障害に対する理念の変化		
29	障害児を取り巻く制度		
30	定期試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育実習指導 I	■講師名	安藤 幸子
1年 通 年	30 コマ (1コマ90分授業)	総時間 60 時間	講義 2 単位
■学修概要			
<p>実習の意義・目的を理解し、実習園では実習担当保育士の指導のもと、次のことを学ぶ。 *実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 *実習園の一日の流れを理解し、各年齢の子どもの発達を理解する。 *指導計画を理解し、生活や遊びの一部を担当し保育技術を習得する。 *保育士としての倫理を具体的に見て、学ぶ。(職員間、保護者対応など) *衛生や安全、疾病の予防について知り学ぶ。 *実習園への事前訪問、事後の訪問など、社会人になるための一つの方法を学ぶ。</p>			
■授業目的、到達目標			
<p>保育士資格取得にかかる必修科目であるため、実習は大切かつ重要であることを認識できるようにする。 *実習の目的や意義を理解し、実習に必要なとされる基礎的な知識を習得する。 *保育実習の際の保育教材についての技能を習得する。 *子どもへの理解と子どもへの援助など、演習を通して具体的に学ぶ。 *実習における指導計画、観察・記録などの方法などを学ぶ。 *実習生としての心構えや倫理を学び、グループで話し合い守秘義務などの理解を深める。 *実習の総括と自己評価を行い、次の課題を明確にすることができるようにする。</p>			
■授業方法			
<p>*講義や演習を通して、実習に役立つ知識、技術、技能を踏まえ、実践力を高めるようにする。 *実習で理解できなかったことは持ち帰り授業内で意見交換し、次の実習に活かせるようにする。</p>			
■教科書（書籍名・出版社） 教科書：新基本保育シリーズ20 保育実習			
監修：公益財団法人 児童育成協会 編集：近喰 晴子 寅屋 壽廣 松田 純子			
発行：中央法規出版（株） ■保育所保育指針			
■成績評価・講義上の注意			
グループワーク、実技演習などへの取り組み方、筆記試験などにより総合的に評価する。			
■実務経験			
保育士資格、幼稚園教諭資格をもち、公立保育園での現場経験を活かし、実習に必要な知識・技術について講義及び指導をしてきた。また、保育士に必要なキャリアアップ講座なども行ってきた。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション、保育実習の目的と概要、P.12 COLUMN 意見交換		
2	福祉職としての保育士、放課後の子どもの居場所、虐待について意見交換		
3	保育実習の心構えと準備（事務局責任者説明）、オリエンテーションメモを考える		
4	保育実習の記録（テキスト内の日誌を模写する）		
5	実習課題（自分の実習課題を考える、学生同士意見交換をする）、P.60：COLUMN参照		
6	保育所実習① 保育所の役割と機能、保育所保育指針を知る：目標・機能・役割など		
7	保育所実習② 保育所における子ども理解：子どもの発達と遊び・アレルギーなど		
8	保育所実習③ 保育所保育士の職務理解：保育者の仕事内容を理解する。実習用名札作り		
9	保育所実習④ 保育所における計画と実践、指導案を模写する：部分実習、全日実習など		
10	保育所実習⑤ 保育環境と安全、感染予防のためのエプロン：450ポリ袋を利用して		
11	沐浴演習・おむつ交換・赤ちゃんの着脱・おんぶ演習：演習室利用		
12	沐浴演習・おむつ交換・赤ちゃんの着脱・おんぶ演習：演習室利用		
13	施設実習① 施設養護の目的や意義 施設実習② 施設で暮らす子どもや利用者の理解		
14	施設実習③ 施設保育士の役割 施設実習④ 施設における養護内容		
15	施設実習⑤ 施設内の生活環境、衛生、安全管理		

16	施設実習⑥ 児童福祉施設における実習の留意点。イメージを出し合う。
17	施設実習⑦ 障がい児者施設等における実習の留意点。イメージを出し合う。
18	実習後の学び ー総括、評価ー：もう一度、授業内でやりたい演習を出し合い、実践する
19	自己課題の明確化（意見交換：学んできたことから、この先が見えないことは何か）
20	学びを深めるために（意見交換：実習先で不安・困ったこと等を出し合う）
21	実習日誌の書き方（実習日誌を模写し、書き方を学ぶ）1
22	実習日誌の書き方（実習日誌を模写し、書き方を学ぶ）2
23	実習指導計画の立て方（部分実習、責任実習など模写し、立て方を学ぶ）1
24	実習指導計画の立て方（部分実習、責任実習などの立て方を学ぶ）2
25	手遊び、歌、ゲームなどの演習1（紙芝居、絵本など実演発表）
26	手遊び、歌、ゲームなどの演習2（紙芝居、絵本など実演発表）
27	実習で制作をするものを作る1：各自、対象年齢を決め材料を準備し作る
28	実習で制作をするものを作る2：各自、対象年齢を決め材料を準備し作る
29	ゲストスピーカーによる講和：保育実習についての話（質疑・応答など）をグループごとに聞く
30	保育実習における学びの整理（レポートにまとめる）

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保幼小の連携	■講師名	阿部アサミ
1 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 2 単位
■学修概要 幼児教育と小学校教育の違いと、その円滑な接続について「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手がかりにして、具体的に学ぶ。			
■授業目的、到達目標 保育園、幼稚園、幼保連携型こども園、3つの幼児教育施設の特性を理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と小学校教育とを結びつけながら、接続の在り方を知る。			
■授業方法 講義と必要によって実践を含む。			
■教科書（書籍名・出版社） 実践事例で学ぶ10の姿を生活科 大学図書館			
■成績評価・講義上の注意 出席、授業態度、授業の振り返りシートなどで総合的に判断する。			
■実務経験 東京都の公立幼稚園に30年勤務した経験を通し、実践と理論を結びつけて講義する。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		
2	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科との関連と接続		
3	「健康な心と体」と生活科		
4	「自立心」と生活科		
5	10の姿「自立心」か生きる生活科での取り組み 「協同性」と生活科		
6	「道徳性・規範意識の芽生え」と生活科		
7	「社会生活との関わり」と生活科		
8	「思考力の芽生え」と生活科		
9	「自然との関わり・生命尊重」と生活科		
10	「数量や図形や文字などへの関心・感覚」と生活科、生活科での取り組み		
11	「言葉による伝え合い」と生活科		
12	「豊かな感性と表現」と生活科		
13	幼小連携のためのスタートカリキュラム		
14	生活科の実践での中の幼小接続実践		
15	カリキュラムマネジメントの重要性		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	子ども理解	■講師名	小野寺 美奈
1 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 2 単位
■学修概要 子どもの心身の発達段階について理解するとともに、子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。			
■授業目的、到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達段階や各時期の行動特性を理解する。 ・子どもをとりまく人間関係が成長に大きな影響を与えることを理解する。 ・子どもを理解するための具体的な方法や態度の基本について理解する。 			
■授業方法 講義・演習・プレゼンテーション			
■教科書（書籍名・出版社） 講師作成レジュメ			
■成績評価・講義上の注意 出席日数、授業態度、提出物、試験により総合的に評価			
■実務経験 講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション（保育における子ども理解の意義と本講義のねらい）		
2	子ども理解における保育者の姿勢—カウンセリングマインドについて学ぼう—		
3	子どもの生活・遊び		
4	個と集団の育ちと保育者の役割①		
5	個と集団の育ちと保育者の役割②		
6	子どもと環境		
7	環境の変化・移行		
8	子どもの葛藤やつまづきと保育者の役割		
9	子ども理解のための観察・記録・省察・評価		
10	子ども理解のための情報共有①—職員間の対話と協働—		
11	子ども理解のための情報共有②—保護者とのやりとり—		
12	特別な配慮を要する子どもの理解と援助		
13	発達の連続性と幼小接続		
14	授業内容のふりかえり		
15	学期末試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	リズム表現 I	■講師名	前田 有輝
1 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 演習 1 単位
■学修概要			
<p>保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するため必要な知識や技術を、自己表出、自己発見、自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現的領域、身体表現敵領域、言語表現的領域から見出し、保育指導法を習得していくことを目的とする。 また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、リトミックを中心に保育の中で取り扱う教材に必要な知識をも合わせて習得する。</p>			
■授業目的、到達目標			
<p>保育の内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を習得する。 表現する力を育てるための手法を実践を通して習得する。</p>			
■授業方法			
講義、集団レッスン、個人レッスン			
■教科書（書籍名・出版社）			
リトミックってなあに：ドレミ楽譜出版 プリント			
■成績評価・講義上の注意			
筆記試験、実技試験、授業態度での総合評価			
■実務経験			
<p>2014年に自身初となるソロリサイタルを開催する。その後多数のオペラや合唱曲、幼児向けコンサートへの出演や動画作成も行う。これまでに個人レッスン・混声合唱団そよ風・横浜創英中学高等学校・日本大学高等学校中学校にて指導者・講師としても活動。「生徒による授業評価アンケート」にて連続で非常に高い評価を受ける。</p>			
■授業計画（講義の流れ）			
1	ガイダンス・音楽の3要素（リズムについて）		
2	音楽教育としてのリトミック①・リズム演習①		
3	音楽教育としてのリトミック②・リズム演習②		
4	リトミック演習①・リズム演習③		
5	リトミック演習②・リズム演習④		
6	人間教育としてのリトミック①・リズム演習⑤		
7	人間教育としてのリトミック②・リズム演習⑥		
8	リトミックの歴史①・リズム演習⑦		
9	リトミックの歴史②・リトミック演習③		
10	指導者としての心構え①・リトミック演習④		
11	指導者としての心構え②・リトミック演習⑤		
12	リトミック演習⑥		
13	リトミック演習⑦		
14	実技試験（リトミック発表）		
15	筆記試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	音楽Ⅱ	■講師名	前田 有輝
1 年 前 期	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 演習 1 単位
■学修概要			
<p>課題曲を集団でレッスンした後、各々のキーボード・ピアノ室の個人練習、個人レッスンを行う。 歌の指導時やリトミック時のピアノ伴奏法を習得するため、グループレッスンを行う。</p>			
■授業目的、到達目標			
<p>楽器演奏時の姿勢・運指法を基礎から丁寧に指導。音楽Ⅰで学習する知識と技術を実践で活かし、演奏技術の習得を目指す。童謡、生活の歌、季節の歌等、弾き歌いの技術習得を目指す。</p>			
■授業方法			
<p>集団レッスン、個人レッスン。 授業4回に1回、ミニテスト実施。 授業時間以外にも、自主的に課題曲の練習を重ねられるよう、促す。</p>			
■教科書（書籍名・出版社）			
<p>改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育：教育芸術社</p>			
■成績評価・講義上の注意			
<p>授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。</p>			
■実務経験			
<p>2014年に自身初となるソロリサイタルを開催する。その後多数のオペラや合唱曲、幼児向けコンサートへの出演や動画作成も行う。これまでに個人レッスン・混声合唱団そよ風・横浜創英中学高等学校・日本大学高等学校中学校にて指導者・講師としても活動。「生徒による授業評価アンケート」にて連続で非常に高い評価を受ける。</p>			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション、片手奏、両手奏、大譜表の練習曲		
2	童謡曲、和音の練習、スリーコード伴奏、アンサンブル		
3	課題曲合同レッスン、個人レッスン		
4	個人レッスン、プチテスト		
5	課題曲合同レッスン、個人レッスン		
6	個人レッスン、アンサンブル		
7	課題曲合同レッスン、個人レッスン		
8	個人レッスン、プチテスト		
9	課題曲合同レッスン、個人レッスン、弾き歌い		
10	個人レッスン、弾き歌い		
11	個人レッスン、試験曲決定		
12	弾き歌いプチテスト、個人レッスン		
13	個人レッスン		
14	個人レッスン・発表		
15	試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育実習指導Ⅲ	■講師名	伊藤能之
1 年 前 期	30 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要			
施設における実習の在り方と内容を学ぶ。実習を受けるにあたり必要な知識を身に着ける。			
■授業目的、到達目標			
実習を行うにあたり、実習に必要な知識と技能を身に着け、その方法論を身に着ける。			
■授業方法			
講義			
■教科書（書籍名・出版社）			
実践力がつく保育実習		大学図書出版	
■成績評価・講義上の注意			
出席日数、授業態度、作成物で総業的に評価			
■実務経験			
講師は、子育て支援センターの勤務経験を活かし、実務者の観点から講義を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション		
2	実習の意義について		
3	これまでの実習と相関		
4	実習に必要な技能とは何か。		
5	理論と実践との相関		
6	施設実習の中身について		
7	児童養護施設について		
8	知的障害者施設について		
9	実習に必要な心構え		
10	保育者の位置づけ		
11	保育者の役割		
12	これまでの施設の歴史		
13	施設が抱えている問題点		
14	実習訪問に関して		
15	今後に生かす実習の成果について		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育実習指導Ⅲ	■講師名	伊藤能之
1 年 前 期	30 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 演習 1 単位
■学修概要 施設における実習の在り方と内容を学ぶ。実習を受けるにあたり必要な知識を身に着ける。			
■授業目的、到達目標 実習を行うにあたり、実習に必要な知識と技能を身に着け、その方法論を身に着ける。			
■授業方法 講義			
■教科書（書籍名・出版社） 実践力がつく保育実習 大学図書出版			
■成績評価・講義上の注意 出席日数、授業態度、作成物で総業的に評価			
■実務経験 講師は、子育て支援センターの勤務経験を活かし、実務者の観点から講義を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション		
2	実習の意義について		
3	これまでの実習と相関		
4	実習に必要な技能とは何か。		
5	理論と実践との相関		
6	施設実習の中身について		
7	児童養護施設について		
8	知的障害者施設について		
9	実習に必要な心構え		
10	保育者の位置づけ		
11	保育者の役割		
12	これまでの施設の歴史		
13	施設が抱えている問題点		
14	実習訪問に関して		
15	今後に生かす実習の成果について		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	現場実践研究 I	■講師名	阿部アサミ
1 年 後 期	10 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要 保育の現場における幼児の発達や学びを理解し、実践の意義と重要性を身に付ける。			
■授業目的、到達目標 保育実践についての知識を身に付け、考え方及び基礎的態度を理解する。 年齢に応じた保育実践の方法を具体的に理解する。			
■授業方法 講義と必要によって実践を含む。			
■教科書（書籍名・出版社） 教育の方法と技術 ビジュアルエイド 大学図書館			
■成績評価・講義上の注意 出席、授業態度、授業の振り返りシートなどで総合的に判断する。			
■実務経験 東京都の公立幼稚園に30年勤務した際の実践と、幼児教育施設の法規のねらい・内容を結びつけて講義する。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション 生活は学び, 遊びは学び「表現」		
2	保育・教育の方法と基礎的理論と実践, 子どもの活動の形態①		
3	保育・教育の方法と基礎的理論と実践, 子どもの活動の形態②		
4	子どもの生活と遊び①「音遊び・運動遊び」		
5	〃		
6	子どもの生活と遊び②「遊びの展開を支える基礎的な技術」		
7	〃		
8	子どもの生活と遊び③「ごっこ遊び・劇遊び」		
9	〃		
10	子どもの生活と遊び④「描いてみよう・作ってみよう」		
11	〃		
12	子どもの生活と遊び⑤「数量・図形に関する遊び」		
13	子どもの生活と遊び⑥「遊びの展開を支える基礎的な技術」		
14	「個別的な対応とクラスづくり」 「活動計画の作成と活用」		
15	ICTを保育に活かす		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	音楽Ⅲ	■講師名	前田 有輝
1 年 後 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 演習 1 単位
■学修概要			
課題曲を集団でレッスンした後、各々のキーボード・ピアノ室での個人練習、個人レッスンを行う。曲のレパートリーを広げていく。歌の指導時やリトミック時のピアノ伴奏法を習得するためのグループレッスンも行う。			
■授業目的、到達目標			
生活の歌、季節の歌など、保育現場で定番の歌を弾き歌いできるようになる。ハ長調・ト長調・ヘ長調の主要和音を使ったコード伴奏を習得する。各自が余裕をもって弾ける伴奏方法にアレンジできるようになる。			
■授業方法			
集団レッスン、個人レッスン			
■教科書（書籍名・出版社）			
改訂 幼稚園教諭 保育士養成課程 幼児のための音楽教育：教育芸術社			
■成績評価・講義上の注意			
授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。			
■実務経験			
2014年に自身初となるソロリサイタルを開催する。その後多数のオペラや合唱曲、幼児向けコンサートへの出演や動画作成も行う。これまでに個人レッスン・混声合唱団そよ風・横浜創英中学高等学校・日本大学高等学校中学校にて指導者・講師としても活動。「生徒による授業評価アンケート」にて連続で非常に高い評価を受ける。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	音楽Ⅱで弾いた曲の復習、生活の歌合同レッスン（左手）		
2	生活の歌合同レッスン（右手）、アンサンブル、個人レッスン		
3	個人レッスン		
4	個人レッスン、プチテスト		
5	季節の歌合同レッスン、個人レッスン		
6	個人レッスン、アンサンブル		
7	生活の歌合同レッスン（弾き歌い）、個人レッスン		
8	個人レッスン、弾き歌いプチテスト		
9	季節の歌合同レッスン、個人レッスン		
10	個人レッスン、弾き歌い		
11	試験曲候補合同レッスン、個人レッスン		
12	プチテスト、試験曲決定		
13	個人レッスン		
14	個人レッスン、発表（試験リハーサル）		
15	試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	子どもと文学	■講師名	高島潤子
1 年 後 期		15 コマ (1コマ90分授業)	総時間 30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
<p>絵本や童話が子どもにとってどう必要か。 年齢・性格によって選ぶ方法、読み聞かせのコツの実践。 自分で絵本をつくり、子どもの視点を養う。</p>			
■授業目的、到達目標			
<p>子どもの読む絵本は、読んでもらう本でもある。 その時々に応じた選書。何が良い本であるかについて考える。</p>			
■授業方法			
<p>・絵本専門店での実習 ・創作の実技</p>			
■教科書（書籍名・出版社）			
特になし			
■成績評価・講義上の注意			
<p>・出席 ・絵本の感想 ・絵本創作、作品の提出</p>			
■実務経験			
<p>講師は、10年以上絵本作家として活躍している。作家の実績を踏まえ、絵本作り等の実務者の観点から講義を行う。 作家として著書を7冊出版。雑誌などにも寄稿。</p>			
■授業計画（講義の流れ）			
1	絵本を紹介しよう		
2	伝わる読み方を考えよう		
3	保育誌に学ぶ言葉の使い方（年齢別）		
4	ブックハウスカフェに行こう1		
5	ブックハウスカフェに行こう2		
6	おはなし会の構成をしよう		
7	絵本をつくろう1		
8	絵本をつくろう2		
9	絵本をつくろう3		
10	絵本をつくろう4		
11	絵本をつくろう5		
12	絵本をつくろう6		
13	絵本をつくろう7		
14	製本をしよう		
15	テスト・おはなし会形式で発表		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	乳児保育Ⅱ	■講師名	山崎 雅子
1 年 後 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 演習 1 単位
■学修概要			
乳児保育の重要性を自覚し、保育士としての専門性を高める為に、乳児の生活と保育について講義と演習により具体的に学ぶ。事例検討やグループ討議により学びを深める。			
■授業目的、到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 乳児保育の意義・目的・役割等について理解している。 2) 保育所、乳児院等多様な保育における乳児保育の現状について理解している。 3) 3歳未満児の発育、発達を理解し、その上で保育内容について説明することができる 4) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者・地域との連携について理解している 			
■授業方法			
授業の特徴・形式 対面式授業とグループワークの演習をしながら授業内容を深めていく。それにくわえてDVDの教材を視聴して最新の医学的な知見を学んでいく。			
■教科書（書籍名・出版社）			
乳児保育Ⅰ・Ⅱ（新・基本保育シリーズ）単行本 - 2019/2/27 中央法規出版 寺田 清美（編集）、大方 美香（編集）、塩谷 香（編集）、児童育成協会（監修）			
■成績評価・講義上の注意			
授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる			
■実務経験			
講師は、30年間の看護師の医療臨床経験及び8年間の保育園看護師としての実績を持っている。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	乳児保育の基本（子どもと保育者との関係・乳児の保育内容）		
2	0歳児の生活の流れ（デイリープログラム）		
3	指針からみる0歳児の保育環境（家庭的環境の大事さ）		
4	0歳児の生活の援助とあそびの援助の実際		
5	1歳児の生活の流れと家庭との連携		
6	1歳児の保育環境（環境整備の重要性・自分のもの・みんなのもの）		
7	1歳児の生活とあそびの援助		
8	2歳児の発達課題と保育者のかかわり方（生活の流れ・自立うながす保育者のかかわり）		
9	2歳児の保育環境（玩具のそろえ方・見立て遊び・指先の発達を促す遊び）		
10	2歳児の援助の実際（2歳児の育みたい資質・能力について）		
11	子どもの心身の健康と安全・情緒の安定を図るための配慮		
12	集団と個々への援助と集団の健康と安全の重要性と配慮点		
13	移行と環境の変化に対する配慮		
14	長期、短期の指導計画と個別的と集団の指導計画		
15	定期試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容演習（人間関係）	■講師名	大西祐輔
1 年 後 期	30 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要 ○子ども理解 ○発達の特徴 ○家庭支援 ○人との関わりの中で育まれる子どもの力			
■授業目的、到達目標 1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域【人間関係】のねらい及び内容について理解する。 2. 乳幼児の発達の特性を理解し、発達に応じた援助の方法を理解する。 3. 子ども達の関わりの中から見える育ちを考察し、文章で表現する。			
■授業方法 前半はグループワークやディスカッションを行う。後半に講義の形式をとる。知識を伝達する形式よりも、ワークやディスカッションを通じて気づきを重要視する。			
■教科書（書籍名・出版社） 基礎から学べる保育内容（人間関係）ワークブック あいり出版			
■成績評価・講義上の注意 授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。 なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外となる			
■実務経験 講師は、保育士として10年間以上携わった実績を踏まえ、現在保育園の園長としての実務者の観点から講義を行う。保育における人間関係の育ちの視点を伝えていく。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション（自己評価、授業のポイント、評価等の説明）		
2	「人と関わる力」についての考察（保育所保育指針より）		
3	子ども理解/大人と子どもの違いから探る（人間関係）		
4	人類の起源から見る子ども		
5	家族と社会の中で育つ子どもの人間関係		
6	乳幼児期における【人間関係】発達の特徴（0歳時）		
7	乳幼児期における【人間関係】発達の特徴（1歳時）		
8	乳幼児期における【人間関係】発達の特徴（2歳時）		
9	乳幼児期における【人間関係】発達の特徴（3歳時）		
10	乳幼児期における【人間関係】発達の特徴（4歳時）		
11	乳幼児期における【人間関係】発達の特徴（5歳時）		
12	人とのかかわりを育む保育の実践1		
13	人とのかかわりを育む保育の実践2		
14	まとめ		
15	後期試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容演習（環境）	■講師名	相澤 隆二
1 年 後 期	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要			
保育内容の領域「環境」の意義と意味を理解し、その指導方法の習得をする。子供の成長における自然環境や社会環境等の役割を理解し、併せて環境を生かした保育方法や考え方を学ぶ。			
■授業目的、到達目標			
1、生活における環境の内容と目的を理解する。2、身近な環境とかかわる指導法を理解する。3、子どもが生活や遊びにおいて体験していることをとらえるとともに、保育に当たって留意、配慮すべきことを理解する。			
■授業方法			
講義、演習			
■教科書（書籍名・出版社）			
保育を学ぶシリーズ3 保育内容「環境」 / 大学図書出版			
■成績評価・講義上の注意			
授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合には成績評価の対象外となる。			
■実務経験			
社会福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者 障害児・者のサービス管理責任者や高齢者施設での相談員等を経験し、東京都内で保育園、学童保育、放課後等デイサービス、障害児・者の特定計画相談事業および横浜市内で高齢者施設、障害者施設を運営する社会福祉法人の理事長。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	領域「環境」の意義と意味		
2	保育計画について		
3	子どもの発達と物的環境 1		
4	子どもの発達と物的環境 2		
5	子どもの発達と人的環境 1		
6	子どもの発達と人的環境 2		
7	子どもの発達と自然環境		
8	幼児教育と教材		
9	知的教育と環境との関わり		
10	環境の中の文字・数		
11	社会の文化と環境の関連		
12	子どもの安全と環境の問題 1		
13	子どもの安全と環境の問題 2		
14	食農保育と環境		
15	定期試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容演習（言葉）	■講師名	小野寺 美奈
1 年 後 期	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要			
人間にとっての言葉の意義や機能を理解した上で、乳幼児の言葉の獲得過程ならびに保育所保育指針の領域「言葉」についての考え方を理解し、豊かな言葉を育むための保育の基礎知識および方法を習得する。			
■授業目的、到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての言葉の意義や機能について理解する。 ・保育所保育指針「言葉」のねらいや内容を理解する。 ・乳幼児の言葉の獲得の過程を理解し、その学びの過程をサポートする保育士の在り方や支援の方法を身につける。 			
■授業方法			
講義、演習			
■教科書（書籍名・出版社）			
『保育 ニュースタンダード 保育内容「言葉」（同文書院） —話し、考え、つながる言葉の力を育てる—』			
■成績評価・講義上の注意			
出席日数、授業態度、提出物等により総合的に評価する。			
■実務経験			
講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション		
2	言葉とは何か		
3	保育内容領域「言葉」のねらいと内容		
4	0～2歳児の言葉の発達とおとなの役割		
5	3歳以上児の言葉の育ちとおとなの役割		
6	言葉のかかわりに配慮を要する乳幼児とその保育について		
7	小学校との接続（話し言葉から書き言葉へ）		
8	領域「言葉」における教材研究と指導法1 —言葉を楽しむ—		
9	領域「言葉」における教材研究と指導法2 —創造や表現を楽しむ—		
10	領域「言葉」における教材研究と指導法3 —イメージや想像を楽しむ—		
11	領域「言葉」における教材研究と指導法4 —生活に使って楽しむ—		
12	ICTの活用		
13	多言語多文化の子どもや保護者とのかかわり		
14	実際に指導案を考えてみよう！		
15	発表、まとめ、ふりかえり		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	子どもの食と栄養	■講師名	中神祐子
1 年 後	期 30 コマ (1コマ90分授業)	総時間	60 時間 講義 2 単位
■学修概要 栄養素から食形態などの食の基本を学習し、さらに食が子どもの身体の発達、精神的、社会的な発達に重要な者であることを知る。			
■授業目的、到達目標 子どもにとって食とは、保育のプロとしてその重要性を理解し、子どもや保護者を含めた支援ができるようになる。また自らも食を大切にし基本的な食生活をおくれるようにする。			
■授業方法 講義及び演習			
■教科書（書籍名・出版社） 子どもの食と栄養 演習所 小川雄二編著医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意 出席日数、授業態度、提出物の評価、定期試験と総合的に評価する。			
■実務経験 約30年間保健センターでの母子保健事業を経験、子どもの発達に合わせた相談や支援を行ってきた経験を活かし、実際の相談事例検討を行いながら理解を深める。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	ガイダンス、栄養と栄養素		
2	演習：自分の1日の献立をたてる		
3	BMI、自分のエネルギー必要量を求める		
4	事例検討		
5	消化と吸収 食べ物がうんちになるまで		
6	幼児向けの媒体作成		
7	お弁当箱で子どもの食事量をつかむ 食事のバランス		
8	幼児期のお弁当をつくる（計画）		
9	実習：幼児期のお弁当づくり		
10	実習：幼児期のお弁当づくり		
11	授乳期の食と栄養		
12	事例検討		
13	離乳食の定義と必要性		
14	離乳食開始から完了までの進め方		
15	手づかみ食べ		
16	離乳食後期の献立計画		
17	ベビーフード		
18	事例検討		
19	実習：離乳食		
20	実習：離乳食		
21	幼児の間食		
22	子どもと一緒に作るおやつ計画		
23	口腔の発達や心身の発達と食生活		
24	保育士の持つておくべき健康の概念		
25	子どもの食生活の現状と課題		
26	小児肥満		
27	保育所における食育		
28	食育イベントと保護者向けのお便り制作		
29	試験		
30	おやつ実習		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育原理	■講師名	伊藤能之
1 年 後 期	30 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
保育の歴史、東洋、西洋のこれまでの概念に関する形成過程を学び、保育に必要な基本的な考え方を学ぶ。			
■授業目的、到達目標			
保育が実践の科学であることを理解し、保育理論と、その実践の課程を学び。あわせて理論と実践の送還など指導計画の必要性など保育に必要な原理を学ぶ。			
■授業方法			
講義			
■教科書（書籍名・出版社）			
理論と実践をつなぐ 保育原理 大学図書出版			
■成績評価・講義上の注意			
出席日数、授業態度、作成物で総論的に評価			
■実務経験			
講師は、子育て支援センターの勤務経験を活かし、実務者の観点から講義を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション		
2	「保育」ということばからイメージすることは		
3	保育者の専門性とは何か		
4	子どもの発達をどのようにとらえるか		
5	子どもにとってのぞましい環境とは何か		
6	現代の家庭と地域		
7	子どもにとっての遊びとは		
8	遊びと発達をどのようにとらえるか		
9	子育ての変遷		
10	保育と養護、教育との関連		
11	日本における保育思想と保育制度の発生と展開		
12	西洋における保育思想と保育制度の発生と展開		
13	保育所設立の法的根拠		
14	育児支援		
15	現代における保育の諸問題		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	教育原理	■講師名	桜井 恵子
1 年 後 期	30 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 2 単位
■学修概要 教育の理念、思想、歴史を学ぶ。 また、保育、教育の今日的課題についても考察する。			
■授業目的、到達目標 教育の理念、思想、歴史、および今日的課題を学び考察することを通して、 自らの教育観を深め続けられる素地を養う。			
■授業方法 講義、演習、プレゼンテーション			
■教科書（書籍名・出版社） 講師作成のプリントを使う。			
■成績評価・講義上の注意 試験、提出物、プレゼンテーションにより、総合的に評価。			
■実務経験 講師は中学校・高校、および大学の教育学部・教職課程で長期に渡り教育に携わってきた。 また、保育者養成課程でも実務経験を積んできた。 これ等の経験を本校での教育に生かしていきたい。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション、・教育とは、・保育と教育		
2	西洋の教育思想（17～18世紀）		
3	西洋の教育思想（19～20世紀）		
4	日本の教育思想（江戸・明治期）		
5	日本の教育思想（大正・昭和戦前期）		
6	外国教育史		
7	日本教育史（太平洋戦争以前）		
8	日本教育史（太平洋戦争以後）		
9	教授・学習理論		
10	カリキュラム		
11	教育改革と教育振興基本計画		
12	保育現場の現状と課題（調べ学習）		
13	保育現場の現状と課題（プレゼンテーション準備）		
14	保育現場の現状と課題（プレゼンテーション）		
15	学期末試験、ふりかえり		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育者論	■講師名	伊藤能之
1 年 後 期	30 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
<p>保育者の位置づけ、役割、使命を中心に保育に対する理解を深めることを目的とする。 保育者の社会的役割について考えていく。</p>			
■授業目的、到達目標			
<p>保育者の役割について理解する 幼稚園教員、保育士等の職務について理解する保育における環境の概念を理解する。</p>			
■授業方法			
講義			
■教科書（書籍名・出版社）			
改訂版/幼稚園教諭・保育士のための現代保育者論		大学図書出版	
■成績評価・講義上の注意			
出席日数、授業態度、作成物で総論的に評価			
■実務経験			
講師は、子育て支援センターの勤務経験を活かし、実務者の観点から講義を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	保育者とはどのようなものか		
2	保育者の位置づけと使命		
3	保育者の役割		
4	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育者の位置づけ		
5	幼稚園教諭になるということ		
6	幼稚園教諭の制度的位置づけ		
7	保育所保育士になるということ		
8	保育士の制度的位置づけ		
9	保育者の一日と役割		
10	保育者の専門性		
11	保育における評価		
12	記録するということ		
13	幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録		
14	自己研鑽		
15	保育者が抱える様々な問題について		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	英語表現	■講師名	五十嵐淳子
1 年 後 期	30 コマ (1コマ90分授業)	総時間 60 時間	講義 2 単位
■学修概要			
この授業では、保育園等における英語活動の実践例から、子どもが楽しめる英語活動はどのようなものかを学ぶ。保育者が保育現場で活用できる表現や語彙、英語教材について学習する。保育現場において英語活動ができるようになることを目指し、英語のコミュニケーション能力の向上を目指すとともに、保育における視点を大切にしながら現場で役立つ内容を取り入れた授業を行う。			
■授業目的、到達目標			
① 子どもの英語学習の意義を踏まえ、子どもの英語活動にはどのようなものがあるのかを説明できるようになる。			
② 英語活動で使う指示語(クラスルームイングリッシュ)や保育現場で役立つ単語や表現を使用できるようになる。			
③ 子どものための英語教材の作成、アクティビティーや英語の歌、手遊びの実演ができるよう			
■授業方法			
保育現場において英語活動ができるようになることを目指し、英語のコミュニケーション能力の向上を目指すとともに、保育における視点を大切にしながら現場で役立つ内容を取り入れた授業を行う。			
■教科書（書籍名・出版社）			
五十嵐淳子(編)『子どもと一緒に楽しむ英語』 大学図書出版2022年			
■成績評価・講義上の注意			
発表(英語活動)50% 定期試験50%			
■実務経験			
英語の中高教員、インターナショナルスクールの職務経験あり			
■授業計画（講義の流れ）			
1	子どもの英語について オリエンテーション		
2	保育者や教師が知っておきたい英語表現 Classroom English		
3	英語で自己紹介をしよう		
4	体の部分を言ってみよう		
5	アクティビティーゲーム		
6	英語教材を作ろう		
7	自分の気持ちを表現しよう		
8	色で遊ぼう		
9	ミニ英語絵本作り		
10	異文化理解		
11	英語の歌		
12	数を使ったアクティビティについて		
13	英語の紙芝居 Who am I?		
14	フラッシュカードについて		
15	英語のHalloween ソング		
16	季節に合わせた活動①Halloween		
17	マザーグースについて		
18	幼児の英語活動の映像		
19	英語のクリスマスソング		
20	季節に合わせた活動②Christmas		
21	クリスマスカードの書き方		
22	保護者へのお知らせの英語の書き方		
23	子どもの英語活動の実践準備		
24	絵カードについて		
25	絵カードを使った英語活動の実践		
26	英語で表現する年間行事		
27	季節に合わせた活動③バレンタイン		
28	英語活動の修了書の書き方		
29	英語の卒園証書について		
30	まとめ 英語活動の実践		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	就職研究 I	■講師名	丸山東人
1 年 後 期	30 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要			
就職活動に必要な心構え、マナー、一般常識、履歴書の書き方等の基本的なことから進める。前半では、教科書を基に、就職の現状や社会人としての心構えとマナー等を、実践を交えて進めていく。後半では、常識問題等の演習や履歴書の作成も試みる。			
■授業目的、到達目標			
正しい職業観の醸成と、人生百年時代を見据えた「社会人基礎力」に謳われたスキルの習得を目標とする。また、授業を通して「働く」意味等、社会人として必要な基本的な職業遂行能力と社会の仕組み・ルールも習得する。			
■授業方法			
講義・演習			
■教科書（書籍名・出版社）			
社会人になるためのキャリア情報リテラシー、柴岡信一郎監著、技術評論社、2021			
■成績評価・講義上の注意			
平常点（出席日数、授業態度）及び提出物の内容、試験の3点から総合的に評価する。 なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。			
■実務経験			
講師は、大学と専門学校で保育士・幼稚園教諭・学校教員の養成に携わってきた経験や、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション（期待される社会人として働くために）		
2	人生100年時代に必要なスキル		
3	社会の常識・会社が求める人材		
4	就職活動の進め方と企業選び		
5	面接から採用までの準備		
6	スキルアップ演習①（敬語編）		
7	スキルアップ演習②（漢字編）		
8	スキルアップ演習③（語彙・文法編）		
9	常識力アップ問題演習①		
10	常識力アップ問題演習②		
11	魅力ある人とは		
12	エントリーシート・履歴書の書き方（基本）		
13	エントリーシート作成（基本）		
14	履歴書作成（基本）		
15	定期試験		